

令和2年度
事業報告書

社会福祉法人 やながせ福祉会

通所介護

大津みやび野デイサービスセンター

令和2年度 事業計画

<p>目 標</p>	<p>機能訓練の内容の充実を図り、満足度を上げることで、稼働率 85% を目指す。</p>
<p>理 由</p>	<p>心身状態やニーズは様々の中、主として、理学療法士を中心とした専門的な機能訓練を目的に利用されている方が多いことを踏まえ、より満足感が得られる機能訓練メニューを検討し、自己選択、自己決定による個別機能訓練を図りたいため。</p> <p>また、心身機能だけでなく、自宅の住宅構造など環境も考慮した機能訓練も提案し、合意のもと、実行していくことで、個々の利用者が希望する住み慣れた自宅での生活の継続につなげたいため。</p>
<p>具体的対応策</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士と生活相談員が利用者や家族に加えて、担当介護支援専門員と話し合い、一緒に心身機能や住宅環境に応じた訓練内容を考え、実行する。 2. 理学療法士がモニタリングとして、PDCAサイクルのもと、利用者や家族の意向を踏まえつつ、現状の訓練内容を検証し、個別訓練計画を見直す。 3. 筋力の増強を図るため、担当介護支援専門員と情報交換をしつつ、利用者や家族に訓練内容を提案し、選択された訓練を実行する。 4. 心身ともに健やかな状態を図るため、個々の利用者の状態にあわせた脳トレーニングもすすめる。 5. 理学療法士が行うモニタリングにあわせて、満足度に関するアンケート調査を行い、集計結果を担当介護支援専門員に報告する。

令和2年度 事業報告

<p>事業報告</p>	<p>コロナ禍に伴う感染症対策から家族や担当介護支援専門員と話し合い、意見交換する機会が減ったことで、利用者個々の心身機能や住宅環境に応じた個別訓練の実施には至らなかった。</p> <p>しかし、3密を避けつつ、換気や消毒を徹底し、利用者一人ひとりに応じた訓練を理学療法士が行っていることで、疾病を除くと利用者の身体機能に著しい低下は観られず、概ね現存機能は保っている。</p> <p>集団での活動に制限がかかり、野外やレクリエーション活動の内容を見直し、作品作りや能力に応じた脳トレーニングなどを中心とした内容に変更したが、年度末に利用者や家族に実施したアンケートでは「楽しかった」「良かった」と好評を得ている。そのため、利用者に活動内容を相談し、一緒に考えていくことで、楽しみやいきがいが感じられる集いの場となるように今後も尽くしていきたい。</p>
<p>事業運営総括</p>	<p>コロナ禍からサービス付き高齢者向け住宅に入居している利用者の利用控えに加え、短期入所生活介護の長期利用や介護老人保健施設への入居、入院治療などが重なったことで、定員に達することなく、利用者数は減り続け、年間の稼働率は75.7%と目標にあげた85%には届かなかった。</p> <p>事業所で新型コロナウイルスの陽性者に対応したことで、従来と異なる角度から感染症対策に関する知識と技術を高められたため、感染症予防対策を継続しつつ、事業所の特長である理学療法士による個別機能訓練に力を注ぎ、ロコミによる利用を増やしていきたい。</p> <p>また、利用者と家族に加え、これまで関係のある介護支援専門員と住環境に応じた個別機能訓練について、話し合い、意見交換をしていくことで、より実情に応じた訓練を計画し、実行していくことで、現存機能の維持を図り、自宅生活の継続と安定した利用につなげていきたい。</p>

要介護度の状況 《平均要介護度 介護1.14 》

令和3年3月31日 現在

	人数	割合
事業	5	7%
要支援1	8	11%
要支援2	21	28%
要介護1	22	29%
要介護2	11	15%
要介護3	4	5%
要介護4	3	4%
要介護5	1	1%
合計	75	100%

月間利用実績（人数）

令和2年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	5	48
要支援1	6	6	7	8	8	10	11	11	8	9	9	8	101
要支援2	15	16	20	20	19	18	19	19	19	17	17	21	220
要介護1	30	29	31	32	30	31	29	30	28	23	21	22	336
要介護2	12	12	11	13	10	11	12	11	11	11	12	11	137
要介護3	3	3	4	4	5	5	5	6	5	4	4	4	52
要介護4	5	5	5	5	5	6	5	5	5	4	3	3	56
要介護5	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	10
合計	76	76	82	86	82	86	86	87	81	72	71	75	960

月間利用実績（延べ人数） 《稼働率 75.7%》

令和2年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業	27	30	26	29	28	26	31	21	21	22	23	31	315
要支援1	24	23	31	35	34	36	41	39	28	25	30	33	379
要支援2	105	115	148	155	141	144	158	117	119	96	117	164	1,579
要介護1	206	204	236	252	243	234	227	193	158	133	158	183	2,427
要介護2	76	74	83	92	66	83	87	63	60	60	89	88	921
要介護3	26	31	41	41	57	56	56	55	46	33	39	46	527
要介護4	61	68	62	73	71	71	68	54	43	35	24	24	654
要介護5	3	1	0	0	5	4	3	3	3	4	3	4	33
合計	528	546	627	677	645	654	671	545	478	408	483	573	6,835

開所日数

令和2年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	26	26	26	27	26	26	27	22	21	23	24	27	301

曜日別延べ利用実績

令和2年度

	月	火	水	木	金	土	合計
人数	1,232	1,089	1,130	1,178	1,187	1,019	6,835
割合	18%	16%	17%	17%	17%	15%	100%

1週当たり平均利用人員

令和2年度

	月	火	水	木	金	土	合計	1日平均
人数	24.6	21.3	21.7	23.5	24.2	23.7	139.00	23.17
割合	18%	16%	17%	17%	17%	15%	100%	—

回数別利用人員

令和3年3月31日現在

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	合計
人数	30	31	12	1	1	0	75
割合	40%	41%	16%	11%	1%	0%	100%

保険者の状況

令和3年3月31日現在

保険者	人数
姫路市	73
太子町	2
合計	75

年齢別構成状況

令和3年3月31日現在

	65歳以下	65歳以上 70歳未満	70歳以上 75歳未満	75歳以上 80歳未満	80歳以上 85歳未満	85歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男	0	0	3	3	5	4	2	17
女	1	1	3	4	17	18	14	58
全体	1	1	6	7	22	22	16	75

日常生活状況

区 分		実数	割合
歩 行	自 力 歩 行	65	86.7%
	杖等の歩行補助器使用	6	8.0%
	車いす使用	4	5.3%
食 事	自 分 で 可 能	74	98.7%
	一 部 介 助	0	0.0%
	全 介 助	1	1.3%
入 浴	自 分 で 可 能	53	70.7%
	一 部 介 助	17	22.7%
	全 介 助	5	6.7%
着 替	自 分 で 可 能	53	70.7%
	一 部 介 助	17	22.7%
	全 介 助	5	6.7%

令和3年3月31日現在

区 分			実数	割合
排 泄	トイ レ	自分で可能	66	88.0%
		介 助	8	10.7%
	内おむつ使用		1	1.3%
認 知 症 高 齢 者			25	33.3%

対 象 人 数	75
---------	----

(四捨五入による%の誤差あり)

行事報告

	行 事	趣味・生きがい活動	レクリエーション及び体操
4月	桜見学（夢前川沿い、朝日山）	脳トレーニング （計算、漢字問題） カレンダー作り	おもり負荷体操 平行棒運動 階段昇降運動
5月	作品作り	手芸 塗り絵（カレンダー作り）	ゴムチューブ運動 棒体操 ボール体操
6月	あじさい観賞（世界の梅公園）	手芸 脳トレーニング （間違い探し）	棒体操 階段昇降運動 ゴムチューブ体操
7月	作品作り （フロア飾り、七夕）	手芸 脳トレーニング （計算、漢字問題）	階段昇降運動 下肢運動 ボール体操
8月	夏祭り （作品作り、うちわ作成）	塗り絵（カレンダー作り） 脳トレーニング （計算、漢字問題）	ゴムチューブ体操 上肢運動 棒体操
9月	作品作り	間違い探し 脳トレーニング （計算、漢字問題）	ゴムチューブ体操 階段昇降運動 平行棒運動
10月	コスモス観賞（たつの市馬場）	手芸 脳トレーニング （虫食い算、計算）	階段昇降運動 歩行訓練 ボール体操
11月	作品作り （12月に向けての飾り）	手芸 脳トレーニング （計算、漢字問題）	反復体操 平行棒運動 棒体操
12月	クリスマス会 （ビンゴゲーム）	手芸 （リース作り、餅花作り）	階段昇降運動 棒体操 平行棒体操
1月	書初め	手芸 塗り絵（カレンダー作り）	ボール体操 階段昇降運動 ゴムチューブ体操
2月	作品作り （バレンタイン作品作り）	手芸 脳トレーニング （計算、漢字問題）	棒体操 平行棒運動 階段昇降運動
3月	外出支援 （菜の花見学）	手芸 脳トレーニング （計算、漢字問題）	ボール体操 階段昇降運動 ゴムチューブ体操

	行 事	趣味・生きがい活動	レクリエーション及び体操
定期的	お誕生会 ボランティアとの交流会 （習字クラブや貼り絵作成など）	書道、ちぎり絵、手芸	カラオケ、ボーリング、輪投げ、物送りゲーム、カーリングゲーム、連想ゲーム

職員間の内部研修の実施状況 (令和2年度)

研修名	研修内容	参加職種	参加人数	期間	講師(職・氏名)
身体拘束について	身体拘束確認テスト(代表的な身体拘束)	全職種	8名	5月23日	生活相談員
リスク管理について	事故報告書の内容確認、対策について	全職種	9名	7月25日	生活相談員
感染症対策について	感染予防について	全職種	7名	8月22日	生活相談員
安全対策について	避難訓練、防災対策(脱出シユーター使用)	全職種	7名	8月22日	生活相談員
接遇について	接遇について、チェックリスト	全職種	6名	9月19日	生活相談員
感染症対策について	感染予防について(コロナウイルス対策)	全職種	6名	9月19日	生活相談員
感染症対策について	インフルエンザ予防、嘔吐物の処理について	全職種	7名	11月21日	生活相談員
リスク管理について	事故報告書の内容確認、対策について	全職種	6名	12月19日	生活相談員
リスク管理について	事故報告書の内容確認、対策について	全職種	9名	3月20日	生活相談員

職員的外部研修の受講状況 (令和2年度)

研 修 名	研 修 内 容	参 加 職 種	参 加 人 員	日 付	期 間	場 所	研 修 結 果 の 報 告 方 法
社会福祉施設等責任職員研修	介護従事者の専門性・心構え・マナー・接遇について	介護職員	2名	8月3日	1日間	総合福祉会館	出張復命書
認知症の理解とケアの実践	認知症の理解、ケアの実践方法、アセスメントに基づいた支援の方法の検討について	介護職員	2名	10月16日	1日間	総合福祉会館	出張復命書
姫路市老人福祉施設連盟 令和2年度施設長及び職員研修会	ウィズコロナ時代のコミュニケーションについて	管理者	1名	11月9日	1日間	大津みやび野ホーム	出張復命書

避難訓練の実施状況 (令和2年度)

実施日	訓練種目	訓練内容
10月19日	みやび野合同避難訓練	日中、火災発生時における通報方法と避難誘導の経路確認。
2月20日	防災対策	消火器の保管箇所の確認、使用の仕方について

苦情対応

発生日	苦情内容	解決方法
令和2年 6月30日	<p>「職員の対応」</p> <p>利用者から体力測定に関して、訓練指導員が本人の意思を無視して行い、「気分を害したため、家に帰る」との申し出がある。</p>	<p>①利用を中断し、自宅に送った生活相談員が、利用者本人と家族に不快を感じさせた訓練指導員の対応について、陳謝する。</p> <p>②意思を確認してから行うなど訓練指導員の対応改善に努めていくことを説明すると理解が得られた。</p>
令和2年 12月1日	<p>「休止から再開時の連絡の不備」</p> <p>新型コロナウイルスから事業所を一時休止し、再開を利用者のみに伝え、家族に伝え忘れたことで、家族から「感染症の心配があり、説明がないままでは利用はできない」との申し出がある。</p>	<p>①生活相談員が家族に連絡し、連絡調整の不備について、陳謝する。</p> <p>②今後、利用者本人のみに留めず、家族にも併せて行うことを説明すると理解が得られた。</p>
令和3年 1月15日	<p>「利用料金、請求ミス」</p> <p>令和2年12月分に提供したりハビリパンツが1枚のところ、11枚と入力し、請求したため、家族から「請求金額が異なるので、気をつけてほしい」との申し出がある。</p>	<p>①生活相談員が家族に連絡し、確認が不十分で請求を誤っていたことを陳謝する。</p> <p>②差額分を返金し、今後、職員2人で請求書を確認し、発送していくことを説明すると理解が得られた。</p>

事故対応

発生日	事故内容	事故対策
令和2年 7月13日	<p>「公用車の接触事故」</p> <p>食材を運搬するにあたり、前進で敷地内に侵入し、積み込み後、後退操作を行った時に後部を柱にあてる。</p>	<p>①駐車前に駐車場に置いてある物品やアーケード支柱との位置関係を把握する。</p> <p>②車幅間隔を身につけ、道路や周りの状況を確認しつつ、慎重に操作する。</p> <p>③接触しそうな場合は、後退せず、前進操作を行う。</p>
令和2年 8月25日	<p>「公用車の接触事故」</p> <p>利用者家族の誘導に従い、マンション駐車場に進入したところ、天井が公用車の高さより低く、上部を梁柱にあてる。</p>	<p>①無理な運転はせず、天井の高さの確認を十分に行う。</p> <p>②目視だけに頼らず、一度、停車し、車から降り、確認してからハンドル操作を行う。</p> <p>③添乗職員が降車し、誘導する。</p> <p>④接触の危険性がある場所には進入せず、異なる場所に停車する。</p>